

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書				
		学校番号	11	学校名
		各務原高等学校		
学校教育目標 (教育方針)	(1) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。 (2) 基礎的、基本的な知識と技能を身に付け、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。 (3) 個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがえのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。 (4) 心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活が送れる生徒を育成する。			
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	・ 基礎的、基本的な知識と技能を身に付け、向上心や挑戦心をもつ、知性と創造性を備えた生徒 ・ 豊かな個性をもち、自己を律することができるとともに、自らや他者をかけがえのない存在として認識し、協調性や協同性とたくましさを備えた生徒 ・ 自己の在り方生き方を考え、地域社会や国際社会の一員として活躍することができる見識と行動力を備えた生徒		
	生徒をどう育てるか 【CP】	・ 学力の向上を図るため、習熟度別や少人数による指導、ICT等を活用した指導など個々に応じた「わかる」授業の実施 ・ 多様な進路志望に応じた、進路希望別クラス編成（特進クラスなど）、国際交流推進、部活動活性化（エキスパートクラブ）、高大連携等を包括したカリキュラムの編成と実施 ・ 多様な価値観、課題解決、コミュニケーションを重視した総合的な探究の時間や生徒会行事、地域の人材資源を有効に活用した地域活動の実施		
	どんな生徒を待っているか 【AP】	・ 主体的な探究心と実践への意欲をもち、高い志を掲げて積極的に学習活動に取り組む生徒 ・ 真摯な態度で己を律することができ、思いやりの精神と仲間とともに切磋琢磨できる気概をもった生徒 ・ 地域に愛着をもち、他者と協調し、協働しながら、社会に貢献しようとする意欲のある生徒		
学校の抱える課題	1 学習に主体的に取り組む姿勢が十分に身に付いていない生徒に対し、家庭での学習習慣も含めて学習姿勢を身に付けさせていくことが必要である。 2 人間関係の構築がうまくできない生徒や、他者に不信感をもつ生徒が存在する中で、良好な人間関係作りをするための取り組みを計画的に行う必要がある。 3 明確な将来への展望が不十分なまま受験を迎える生徒に対して、早期に明確な進路意識を持たせるための計画的なキャリア教育、自ら考え自己表現する力を育てる指導が必要である。 4 自分自身に今一つ自信が持てない生徒について、行事や生徒会活動等を通して達成感や自信を持たせ、自主性や協調性を育成することが求められる。 5 地域と連携した「総合的な探究の時間」の取組と教科の学習及び進路指導との効果的な融合という点で、改善すべき余地がある。			
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標		
	学習指導	学力の向上 【学習に対する意欲を喚起し、自ら学ぶ態度を育成する。】		
	生徒指導	人間性の向上【秩序ある教育環境をつくり、他者の考えを尊重しつつ、自ら考え行動する自律の精神を養う。】		
	特別活動	体力の向上 【心身の調和的発達を図る基礎作りを充実する。】		
	学校経営	働き方改革の推進		

年 度 目 標				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	生徒の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための教科指導となるよう、授業改善・校内研修を組織的・計画的に推進する。	8	施策Ⅱ-8	①授業改善に向け、授業評価、授業研究・校内研修が効果的に行われたか。
	科学への探究心と論理的思考力を育成するとともに、社会感覚やコミュニケーションへの意識を向上させる。	10	施策Ⅱ-10	②主体的・対話的で深い学びの中で、生徒の生きる力が向上したか。
	各教科で読む力、書く力、聞く力、話す力を統合的に高める教育を行い、実践的なコミュニケーション能力を高める。	11	施策Ⅱ-11	③地域の産業界や関係機関等と連携し、地域課題を発見・解決する学習を促進できたか。
	「ふるさと教育」に積極的に取り組む。地域資源を活用し、地域との交流を深め、地域課題を発見・解決する学習を推進する。	13	施策Ⅱ-13	
生徒指導	あらゆる機会を通して、自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。	2	施策Ⅰ-2	①生徒が自他の生命や人格を尊重できるようになり、生活やいじめ・人間関係のトラブルの状況が改善されたか。
	すべての教育活動において主権者教育・消費者教育を推進する。	12	施策Ⅱ-12	
	落ちついた雰囲気の中で学習ができるよう、学習環境を整備する。	19	施策Ⅲ-19	②学校が学びの場として、落ちついた雰囲気の中で学習ができる環境となったか。
	全職員で「挨拶、身だしなみ・遅刻防止指導、清掃」に取り組み、生徒の規範意識を向上させる。	1	施策Ⅰ-1	
特別活動	新生祭等の学校行事を生徒主体で運営し、自主性・自立性・協調性を養う。	20	施策Ⅳ-20	①学校行事に生徒が主体的に関わることができ、自主性や協調性が養われ、達成感が得られたか。
	心身とも健康な体作りを行い、たくましさ、自己管理能力の育成を図る。	16	施策Ⅲ-16	②状況に応じた部活動の運用により、生徒にも教員にも配慮した運営ができたか。
	生徒のニーズに応じた新たな部活動を実践し、活性化を図る。	25	施策Ⅳ-25	
学校経営	長時間勤務と多忙化の解消に向け、業務内容の不断の見直しを行う。	27	施策Ⅳ-27	①業務内容の精選により、学校の抱える仕事を軽減できたか。
	ハラスメントとメンタル不調を速やかに察知し、解決を図る。	28	施策Ⅳ-28	②長時間勤務をする職員または全体の時間外在校時間が減少したか。
				③ハラスメントやメンタル不調の職員に対して配慮した対応が迅速に対応できたか。

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月14日

- 教育目標、スクール・ポリシー、スクール・ミッションについて、学校の状況、生徒の状況を踏まえてより適切なものへと整備を進める。
- 整備した教育目標、スクールポリシー、スクール・ミッションと日々の教育活動とのつながりについて、各分掌、各教科、個々の職員が再度意識し、明確化して生徒に伝えられるように校内での研修を進める。
- 現状を適切に分析するためにも、目標値の明確化、見える化を進めるとともに、単純な数値化では図りにくい繊細な内容については配慮した目標を設定するよう、工夫する。

年 度 末 評 価（自 己 評 価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
①授業公開、研究授業等を実施し、授業研究や授業改善、授業アンケートを継続的に行った。 ②個々の教員が生徒の実態を踏まえて、理解しやすく、根拠に基づく論理的思考力やコミュニケーション能力を高める授業、読む力、書く力、聞く力、話す力を統合的に高める授業を行った。 ③総合的な探究の時間を中心に、地域との交流を深め、地域課題を解決し、地域の魅力を発信する学習活動を実施した。	B	○生徒の実態に応じた生徒の力を伸ばす授業については、アンケート調査でも高く評価されている。また、探究活動を軸に市立図書館や市の企業と連携し、地域の魅力の発信や地域の課題の解決に取り組めた。 ▲個々の生徒間の差が大きい、基礎学力や学習習慣の定着度、言語を用いて論理的に考える力及びコミュニケーション能力についての対応に、さらに工夫が必要である。	
①薬物乱用防止講話、コミュニケーション能力向上事業、交通安全講話、命を守る訓練等を通じて、自他の命を大切にする気持ちや、他者への思いやりの気持ちを醸成した。 ②全職員が挨拶や身だしなみ、遅刻防止等に取り組み、問題行動があった場合も、連携して対応した。また、機会を捉えて集団生活におけるルールや配慮の意味を伝えた。	B	○人間関係のトラブルに迅速に連携して対応し、状況を改善できた。 ▲生徒の「命を守る意識や思いやりの心」は確実に身に付いてきているが、精神的な幼さや視野の狭さからの軽率な行為が問題行動に発展したケースが複数あった。 ○遅刻が前年比64％（12月現在）と減少し、欠席も減少傾向にあり、学校全体が落ち着いてきた。	
①生徒会活動の活性化を促し、新たに校内清掃活動を4回、学校周辺の通学路へボランティア清掃活動などを実施。生徒が主体的に行うことが出来た。球技大会では、前年度の反省を生かし競技を5種目から3種目に減らし、教員の配置数を増やした。 ②各部教員と生徒の共有理解の上で、現状に合った方針で進めている。	B	○生徒の意見を生かしつつ行事を行うことができ、生徒の自主性や協調性を養うことができたが、今後も、生徒が主体的に行動できるように、企画立案を行う必要がある。 ▲来年度以降、教員数（指導者数）の減が想定され、現状では部活動についての教員の負担増や、生徒への指導が十分にできない事態が予想されている。	B
①ITの活用や保護者の方のご協力、実施方法の見直し等により、従来の業務については、負担を軽減できた。 ②時間外等在校時間については、4月から12月までの比較で、令和5年度合計11103:13→令和6年度合計10497:20と、減少している。 ③ハラスメントを防ぐための研修を実施するとともに、訴えやメンタル不調に対しては、臨機応変に対応した。	B	▲個々の生徒やご家庭の抱えている課題への対応等も含めて、かなり広範囲な対応を求められる状況は続いており、現場だけの対策には限界もある。 ○時間外等在校時間は全体としては減少しているが、個人差が大きい。 ▲長時間の時間外在校をしている職員の状況改善のためにも、業務の精選をさらに進めていく必要があるが、一方で学校に求められる業務自体はなかなか減少せず、難しい状況がある。 ▲メンタル不調、ハラスメントの防止という点からも、職員の時間的・精神的な余裕は重要である。余裕をもたらず環境整備を進めていく必要がある。	

学校関係者評価

実施日：令和7年1月28日

- スクール・ポリシーをどのように学校経営に位置付けていくのかをさらに追究していくことが大切である。例えばICTの活用についても、活用している教員がカリキュラム・ポリシーを意識して、やっていくことが大切。スクール・ポリシーとの関係を生徒に開示することで、「各務原高校ではこんなことが学べる」「先生方はこんな願いをもって指導している」ということが伝わり、自分は何をすべきかを生徒が考えて実行する主体性が生まれるのではないか。
- 教育目標、スクール・ポリシー、スクール・ミッションともに永遠に不変なものではない。現状を考えた上で、より適切なものに変えていくこともまた大切である。
- 目標値（指標）の明確化、見える化によって、生徒の意識も明確化され、学校全体としてもどの程度目標達成ができていくか明確になり、さらなる手段や対策を考えたり、修正したりできるのではないか。
- 自己評価がすべてBということになっているが、たいへん謙虚な評価になっているように思う。取組状況や達成状況、成果など見る限り、Aとしてもよい部分があるのではないか。